

前橋市立前橋高等学校

めぶく

地域活性化プロジェクト



探究通信
第4号
7・8月合併号
R3.8.10

自然体験ツアー、ジップライン、スイーツ&コスメ、昆虫食… 赤城山活性化プランを本気で考えた2日間

地域探究プログラム 地域課題を解決する手法を学ぶ オリエンテーション合宿③ 赤城に参加

7月17日(土)・18日(日)に2年生12名、1年生5名が地域探究プログラムのオリエンテーション合宿に参加してきた。このプログラムにより地域課題を見つけ、その具体的な解決手段を模索するという、探究学習「めぶく」の基礎を理解し、深い学びへとつながることができる。

7月17日(土)に前橋デザインコミュニケーション(MDC)が主催となっている「馬場川通りのアーバンデザインプロジェクト」のセミナーとワークショップが前橋プラザ元気で21日で行われた。本校からは生徒会本部役員の代表として、廣澤希々



↑2日目プレゼンテーションのための準備の様子

馬場川通りのアーバンデザインプロジェクト

第1回準備委員会に参加

7月3日(土)に前橋デザインコミュニケーション(MDC)が主催となっている「馬場川通りのアーバンデザインプロジェクト」のセミナーとワークショップが前橋プラザ元気で21日で行われた。本校からは生徒会本部役員の代表として、廣澤希々



↑2日目の発表の様子

本校の2名は大人ばかりのグループの中で活発に意見を出し、班の代表として発表を行うなど活躍した。なお、準備委員会の様子は広報まえばし8月号に掲載された。

観光客にインタビューを行った。星野杏さん(昭和申出身)は「身近だと感じていた赤城山の知らない面を知った」とうた。



赤城山自然体験ツアーの準備の様子。朝から各グループで意見を出し合い、具体的な活性化プランを練り上げた。A班は「赤城山自然体験ツアー」、星野三夜へようこそ」を考えた。ツアーは夜から始まり、翌日昼まで続く。春から秋にはウォーターボールを大沼に浮かべ、その中で天体観測をする。冬には氷上キャンピングも計画し、謎解きスタンプラリーも組み込んだ。旅行会社と連携し、「また来たくなる赤城山」を目指す。B班は、特に若い女性の集客に焦点を当て「スイーツとコスメで赤城山全体の四季を楽しむ」をコンセプトにスイーツの材料をフルーツ狩りで客が調達して

学びの成果としての発表

4グループで地域活性化プランを提案

2日目は15時からのプレゼンテーションに向け、朝から各グループで意見を出し合い、具体的な活性化プランを練り上げた。A班は「赤城山自然体験ツアー」、星野三夜へようこそ」を考えた。ツアーは夜から始まり、翌日昼まで続く。春から秋にはウォーターボールを大沼に浮かべ、その中で天体観測をする。冬には氷上キャンピングも計画し、謎解きスタンプラリーも組み込んだ。旅行会社と連携し、「また来たくなる赤城山」を目指す。B班は、特に若い女性の集客に焦点を当て「スイーツとコスメで赤城山全体の四季を楽しむ」をコンセプトにスイーツの材料をフルーツ狩りで客が調達して



赤城山自然体験ツアーの準備の様子。朝から各グループで意見を出し合い、具体的な活性化プランを練り上げた。A班は「赤城山自然体験ツアー」、星野三夜へようこそ」を考えた。ツアーは夜から始まり、翌日昼まで続く。春から秋にはウォーターボールを大沼に浮かべ、その中で天体観測をする。冬には氷上キャンピングも計画し、謎解きスタンプラリーも組み込んだ。旅行会社と連携し、「また来たくなる赤城山」を目指す。B班は、特に若い女性の集客に焦点を当て「スイーツとコスメで赤城山全体の四季を楽しむ」をコンセプトにスイーツの材料をフルーツ狩りで客が調達して

国際理解を深めるために

8月2日(月)・3日(火)に本校初の試みである「ENGLISH CAMP」が行われた。2年生17名、1年生2名が参加した。今回は国際理解を深めていくために「高校生の私たちができるSDGs」をテーマにして活動が展開していった。



1日目は国立赤城山青年交流の家にて「フカベンチャーハント」(各ポイントにあるクイズを解きながら道なき道を進む2時間程度のウォークラリー、結果的にグループでめられると発表した。まさに班員がそれぞれ見たことや感じたことを言葉にしたことで、新たなアイデアが生まれた場面だ。

の話合いを円滑に進めるための活動となった。行ったその後、JICA(国際協力機構)による講演会で途上国の現状と課題を知った。海外の事情と身の回りを比較し、日本人の価値観との違いを考える機会となった。2日目は本校にて英語によるプレゼンテーションの準備を、市内小中学校のALTによる支援を受けながら行った。大澤里奈さん(富士見申出身)は「外国人との交流や講演会、プレゼンテーション作成を通して、それぞれの立場や違いを学ぶことができた」と話した。

「地域探究アワード」に向けて



合宿に参加した2年生は「模擬市長選」・「前橋市高校生模擬議会」の際、クラスに学んだことを還元していく役割を担う。また、まえばしハニープロジェクトと連携して地域活性化していくために、意見を出し、実践活動を展開していく。さらに「地域探究アワード」に出場する。どのような地域活性化プランを掲げて地方ステージに臨むのか。探究学習は続く。



いと言っていたことから昆虫食に着目しプレゼンを展開した。意見をまとめることの難しさを感じつつも、成果はあった。うで下田歩果さん(吉岡申出身)は「自分の意見を出すことの大切さを実感した」と話した。

1年生は9月に前橋中心商店街でのフィールドワークを予定している。全員で地域課題を発見し、次の「市内企業フィールドスタディ」につなげていく。

まちなかりサーチ

先があることを知った。自分からは進んで調べない進路先を知れたので良かった」と話した。

進学ライブに参加



7月15日(木)に1年生が「まえばし進学ライブ未来ユニー」に参加した。グリーンドームに企業や大学の体験ブース、県内、県外の大学・短大・専門学校の紹介ブースが設置された。企業(仕事)と学問のつながりを感じるきっかけづくりがコンセプトであった。生徒は一週間前の事前学習で、興味のある企業や大学を調べておき、聞きたいことなどをリストアップして当日に臨んだ。上毛新聞の体験ブースではカメラを貸し出し、進学ライブ中のグリーンドームで、新聞記事にすべき1枚を撮ってくださるというものだった。参加した安藤誠人君(渋川申出身)は「人の注目をひく写真を撮るのは難しいと感じた」と話した。北爪愛音さん(桂貫申出身)はJEPSSAの体験ブースで発泡スチロールに卵を落とし(強く投げつけても割れない)、発泡スチロールの強度を体感した。「楽しく様々な企業や進路先があることを知った。自分からは進んで調べない進路先を知れたので良かった」と話した。